

実践的推論を導入した問題解決学習は、メタ認知的学習方略の獲得・使用に効果がある

キーワード

ホームプロジェクト、実践的推論、問題解決、学習方略

結論
(エビデンス)

実践的推論プロセスを導入したホームプロジェクト学習を実施し、問題解決プロセスで培われる学習方略の観点から、学習の意義と効果の検証を実施した結果、本学習以前の方略は認知的方略が中心で、目標設定や計画立案といったメタ認知的方略、協同性、意見表明、情報収集や家族からの学びに関する外的リソース方略の使用はやや低い状況にあった。また、学習方略の促進は、2つの学習課題—①友人の考え方ややり方から学ぶ、②充実した実践を行う—を達成することに影響された。特に、メタ認知的方略の獲得・使用は実践からの学びが大きく生活実践の意義が明らかとなった。さらに、メタ認知的方略の向上は、達成価値に関する認知的な動機づけを高めると考えられた。

他者から学びとる方略や多様な視点から考えて重点を捉え、既習事項と結びつけた学習者は、達成価値の側面から学習が動機づけられ、問題解決に向けた学習課題を達成できた。特に、協同的な学習で友人の方略を学びとることや実践を充実させることで学習方略の使用は全般的に高まった。

内容説明

本研究では、高校家庭科の必修課題であるホームプロジェクトに関する介入研究を実施した。学習成果を捉える視点を「学習プロセスで培われる思考様式や学習方略」に置き、ホームプロジェクト学習の意義と効果の検証を目指した。具体的には、問題解決に至る思考や判断を重視する実践的推論を導入した指導を試み、学習前後における学習方略の変化から効果を測った。

調査対象は、「家庭基礎」を履修する県立高校普通科1年生220名(6クラス)で、有効回答率は92.8%である。ホームプロジェクト学習は、2010年7月～9月に実施した。

学校種

小・中・**高**・大・その他

領域・分野

家族・家庭生活 食生活 衣生活 住生活
高齢者福祉 保育 消費生活・環境 **その他**

論文名・題材名等

実践的推論を導入した問題解決学習の効果
—ホームプロジェクトにおける学習方略の変化の観点から—

執筆者・実践者等
氏名・所属名

福田恵子・鳥取大学地域学部
後藤真理・鳥取県立境港総合技術高等学校

掲載・発表学会誌・報告書・雑誌・書籍等

日本家庭科教育学会誌

巻・号/
出版社他
(〇p-〇
p)

第55巻第3号
(150p-161p)

掲載・実践
年月日/
出版年

2012.11